

山形県産葡萄(デラウエア種)を使った微発泡ワインの製造方法の開発・販売

有限会社 タケダ ワイナリー

山形県

上山市四ツ谷2-6-1
1920年(大正9年)設立
023-673-0040

<http://www.takeda-wine.co.jp>



代表取締役社長
岸平 典子

国内初の瓶内1次発酵のみによる微発泡ワインの製造方法の開発・販売で山形県産葡萄(デラウエア種)の増産とブランド化により地域活性に貢献。

山形県産葡萄生産の現状・課題

山形県の葡萄栽培は山梨県・長野県に次いで全国3位となっており、特にデラウエア種では全国1位の栽培面積と収穫量を誇っている。しかしながら、近年生産者の高齢化や後継者不足に加え、葡萄の多品種化等による生食用デラウエア種の消費の落ち込みもあり、デラウエア種の栽培面積及び収穫量は減少傾向で、新たな活用による栽培農家の活性化が期待されている。

国内初の1次発酵のみによる微発泡ワインの開発

同社は、国内老舗ワイナリーの一つで、洞爺湖サミットでの昼食会用ワインにも選ばれるなど、確かな技術と実績を持っている。これまで培った技術と実績を活かし、地元山形県産の良質なデラウエア種だけを用いた、日本国内では初めての瓶内1次発酵で酸化防止剤も入っていない「無添加・無濾過」の生詰微発泡ワインの製造方法を開発するとともに、山形県産デラウエア種のブランド化も図っている。

微発泡ワイン「サン・スフル」の販売と今後

開発した国内初の微発泡ワイン「サン・スフル」はワイン評論家や愛好家たちからの評価が高く、メディアにも数多く取り上げられており、19年度2,000本、20年度10,000本の商品が既に完売となるなど好評を得ている。次年度以降も、「サン・スフル」の増産とシリーズ化により、山形県産デラウエア種の収穫量増加とブランド化による地域の活性化を目指している。



自家農園



ぶどうの収穫



デラウエアの仕込み



開発商品「サン・スフル」

自動車塗装に採用された 静電気除去装置を開発

株式会社 アルファ・ テクノツール



山形県
村山市大久保4937-2

1989年(平成元年)設立
0237-54-3310
(本社連絡先: 0237-72-2811)

代表取締役
武田 幸一

<http://www.alpha-tt.jp>

静電気の発生を防ぐ独自の技術で、色むらのない塗装吹きつけが可能となる塗装補助装置を開発。国内自動車メーカーにも採用。

世界初の「無帯電塗装装置 イオンマックス」は自動車メーカーにも採用

同社が開発した「イオンマックス」は装置内で電圧をかけて空気中の分子を分解し、電氣的にプラスでもマイナスでもない状態をつくり出せる。このため、塗料が静電気を帯びずに噴射されるのでゴミ、チリの除去に止まらず、塗装が薄く、均一にでき、きれいで、簡単に仕上げることができる。さらにメッキ、真空蒸着などの代替にもなり得るような仕上がりが確保できるため、様々な用途への応用が考えられる。既に、高級乗用車の内装品工場でも使用されているほか、最近では海外への輸出も始めるなど高い評価を得ている。

寒冷地の雪対策や凍結防止にも貢献

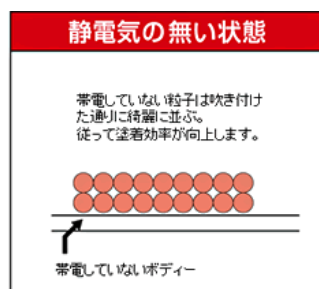
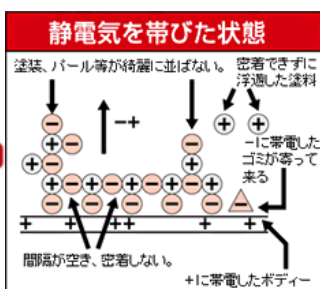
現在同社は、塗装して専用のコントローラーを接続するだけで融雪用途などのための十分な熱量が得られるという「発熱塗料」を手がけている。含有物に人体や生物に有害な物を一切含まないことで環境に配慮しており、また、断線がなく、塗り直しが可能で、低消費電力といった優れた特徴がある。さらに、シート状の発熱モジュールと違い対象物の形を選ばないため、ロードヒーティング以外の用途にも応用が可能である。

「特殊工具・リコール対策部品の供給」で自動車メーカーに貢献

同社は、国内の主な自動車メーカー向けの特殊工具やリコール対策部品を製造・供給している。この分野は、一般的な量産品と違い、「少数・多品種・短納期」のものが多く企業努力が必要な分野であるが、これらのニーズに応える取り組みを行ってきており、自動車メーカーのモノづくりを陰で支えている。



無帯電塗装装置イオンマックス



発熱塗料 施工風景